

(監督員用)

### 委託業務成績採点の審査項目の審査項目別運用表

【記入方法】 審査項目細別の a, b, c のどれか1つを選択し、評価欄に記入してください。

【設計業務】

項目	細別	加 点 要 素 a	加 減 点 な し b	減 点 要 素 c	評 定
1業務の実施計画段階	I 業務の理解	設計の目的と内容を十分理解し、把握していた。	a, cに該当しない場合。	設計の目的と内容についての理解、把握が不十分であった。	b
	II 事前準備 (1)	既往調査文献の参照等、事前準備として十分な調査や資料整理を行った。	a, cに該当しない場合。	既往調査文献の参照等、事前準備としての調査や資料整理が不十分であった。	b
	事前準備 (2)	設計の目的に照らし現地調査を十分行った。	a, cに該当しない場合。	設計の目的に照らし現地調査の実施が不十分であった。	b
	III 打合せ協議	設計業務実施計画書等に関する当初の打合せにおいて、疑義についての質問、有益な提案を行う等、積極的な取組みが見られた。	a, cに該当しない場合。	設計業務実施計画書等に関する当初の打合せにおいて、疑義についての質問等の取組みに積極性が見られなかった。	b
	IV 業務実施計画書 (1)	解析手法等の技術的な内容が適切かつ十分なものとなっており、これに基づき適切な実施手順、工程計画となっていた。	a, cに該当しない場合。	解析手法等の技術的な内容が不適切かつ不十分であった。実施手順、工程計画の設定に適切さを欠いた。	b
	業務実施計画書 (2)	業務実施体制(人数、担当者の技術能力等)を適切に設定していた。	a, cに該当しない場合。	業務実施体制(人数、担当者の技術能力等)の設定が不適切であった。	b
2業務の遂行計画	I 打合せ協議 (1)	打合せの時期、内容が適切であった。	a, cに該当しない場合。	打合せの時期、内容が不適切であった。	b
	打合せ協議 (2)	発注者との密接な連絡の実施、疑義についての質問を行う等、積極的な取組みが見られた。	a, cに該当しない場合。	発注者との密接な連絡の実施、疑義についての質問を行う等の取組みに、積極性が見られなかった。	b
	打合せ協議 (3)	指示、協議事項を正確に理解し、適切な打合せ記録を作成した。	a, cに該当しない場合。	指示、協議事項の理解に正確さが欠け、打合せ記録の作成が不適切であった。	b
	II 工程管理 (1)	当初の工程管理や指示事項等を踏まえ、適切な工程管理を行い、所用の工期に余裕をもって業務を完成させた。	a, cに該当しない場合。	工程管理が不適切で所用の工期ぎりぎりであった。	b
	工程管理 (2)	ミスや手戻り、外部機関等とのトラブルがほとんどなかった。	a, cに該当しない場合。	ミスや手戻り、外部機関とのトラブルが多かった。	b
	III 照査	チェックリストの作成、チェック責任者の明示等、厳格な照査を実施した。	a, cに該当しない場合。	チェックリストの作成、チェック責任者の明示等の照査内容があいまいであった。	b
	IV 技術力	当初の検討項目の遂行や指示事項等への対応において、十分な技術力を有していた。	a, cに該当しない場合。	当初の検討項目の遂行や指示事項等への対応において、技術力が不十分であった。	b
V 目的の達成度	初期の目的に照らし満足できる優れた成果をあげた。	a, cに該当しない場合。	初期の目的に照らし成果のレベルが不満足であった。	b	
3業務の成果品	I とりまとめ (1)	分かりやすく簡潔な表現となっている。	a, cに該当しない場合。	分かりやすさ及び簡潔さも不十分である。	b
	とりまとめ (2)	業務遂行段階での指示事項等も含め、検討成果を的確に取りまとめている。	a, cに該当しない場合。	業務遂行段階での指示事項等も含め、検討成果とりまとめの的確さが欠けている。	b
	とりまとめ (3)	図表等の表現の工夫により、内容を理解しやすくかつ使いやすくなる努力が見られる。	a, cに該当しない場合。	図表等の表現の工夫により、内容を理解しやすくかつ使いやすくなる努力が見られない。	b

(担当係長用)

委託業務成績採点の考査項目の考査項目別運用表

【記入方法】 考査項目細別の a, b, c のどれか1つを選択し、評定欄に記入してください。

【設計業務】

項目	細別	加 点 要 素 a	加 減 点 な し b	減 点 要 素 c	評 定	
1業務の実施計画段階	I 業務の理解	設計の目的と内容を十分理解し、把握していた。	a, cに該当しない場合。	設計の目的と内容についての理解、把握が不十分であった。	b	
	II 事前準備 (1)	既往調査文献の参照等、事前準備として十分な調査や資料整理を行った。	a, cに該当しない場合。	既往調査文献の参照等、事前準備としての調査や資料整理が不十分であった。	b	
	事前準備 (2)	設計の目的に照らし現地調査を十分行った。	a, cに該当しない場合。	設計の目的に照らし現地調査の実施が不十分であった。	b	
	III 打合せ協議	設計業務実施計画書等に関する当初の打合せにおいて、疑義についての質問、有益な提案を行う等、積極的な取組みが見られた。	a, cに該当しない場合。	設計業務実施計画書等に関する当初の打合せにおいて、疑義についての質問等の取組みに積極性が見られなかった。	b	
	IV 業務実施計画書 (1)	解析手法等の技術的な内容が適切かつ十分なものとなっており、これに基づき適切な実施手順、工程計画となっていた。	a, cに該当しない場合。	解析手法等の技術的な内容が不適切かつ不十分であって、実施手順、工程計画の設定に適切さを欠いた。	b	
	業務実施計画書 (2)	業務実施体制(人数、担当者の技術能力等)を適切に設定していた。	a, cに該当しない場合。	業務実施体制(人数、担当者の技術能力等)の設定が不適切であった。	b	
2業務の遂行計画	I 打合せ協議 (1)	打合せの時期、内容が適切であった。	a, cに該当しない場合。	打合せの時期、内容が不適切であった。	b	
	打合せ協議 (2)	発注者との密接な連絡の実施、疑義についての質問を行う等、積極的な取組みが見られた。	a, cに該当しない場合。	発注者との密接な連絡の実施、疑義についての質問を行う等の取組みに、積極性が見られなかった。	b	
	打合せ協議 (3)	指示、協議事項を正確に理解し、適切な打合せ記録を作成した。	a, cに該当しない場合。	指示、協議事項の理解に正確さが欠け、打合せ記録の作成が不適切であった。	b	
	II 工程管理 (1)	当初の工程管理や指示事項等を踏まえ、適切な工程管理を行い、所用の工期に余裕をもって業務を完成させた。	a, cに該当しない場合。	工程管理が不適切で所用の工期ぎりぎりですら完了した。	b	
	工程管理 (2)	ミスや手戻り、外部機関等とのトラブルがほとんどなかった。	a, cに該当しない場合。	ミスや手戻り、外部機関とのトラブルが多かった。	b	
	III 照査	チェックリストの作成、チェック責任者の明示等、厳格な照査を実施した。	a, cに該当しない場合。	チェックリストの作成、チェック責任者の明示等の照査内容があいまいであった。	b	
	IV 技術力	当初の検討項目の遂行や指示事項等への対応において、十分な技術力を有していた。	a, cに該当しない場合。	当初の検討項目の遂行や指示事項等への対応において、技術力が不十分であった。	b	
	V 目的の達成度	初期の目的に照らし満足できる優れた成果をあげた。	a, cに該当しない場合。	初期の目的に照らし成果のレベルが不満足であった。	b	
	3業務の成果品	I とりまとめ (1)	分かりやすく簡潔な表現となっている。	a, cに該当しない場合。	分かりやすさ及び簡潔さも不十分である。	b
		とりまとめ (2)	業務遂行段階での指示事項等も含め、検討成果を的確に取りまとめている。	a, cに該当しない場合。	業務遂行段階での指示事項等も含め、検討成果とりまとめに的確さが欠けている。	b
とりまとめ (3)		図表等の表現の工夫により、内容を理解しやすかつ使いやすくなる努力が見られる。	a, cに該当しない場合。	図表等の表現の工夫により、内容を理解しやすかつ使いやすくなる努力が見られない。	b	

(検査員用)

## 委託業務成績採点の審査項目の審査項目別運用表

【記入方法】 審査項目細別の a, b, c のどれか1つを選択し、評価欄に記入してください。

【設計業務】

項目	細別	加 点 要 素 a	加 減 点 な し b	減 点 要 素 c	評 定
1業務の実施計画段階	I 業務の理解 (1)	設計の目的と内容を十分理解し、把握していた。	a, cに該当しない場合。	設計の目的と内容についての理解、把握が不十分であった。	b
	業務の理解 (2)	解析手法等の技術的内容、実施手順、工程計画、照査等、業務実施計画が適切かつ十分なものになっていた。	a, cに該当しない場合。	解析手法等の技術的内容、実施手順、工程計画、照査等、業務実施計画書が適切さに欠け不十分であった。	b
2業務の遂行計画	I 技術力 (1)	常に創意工夫し、設計等の目的に照らし、必要な検討作業事項や今後の検討方針等の積極的かつ的確な提案を行った。	a, cに該当しない場合。	創意工夫が見られずかつ設計等の目的に照らし、必要な検討作業事項や今後の検討方針等に対する積極的な取組みが見られなかった。	b
	技術力 (2)	現地調査等の事前準備の結果を設計に十分考慮して作業を進めた。	a, cに該当しない場合。	現地調査等の事前準備の結果を十分成果に反映させなかった。	b
3業務の成果品	I 技術力 (1)	目的の成果を導き出すための解析手法、解析条件を十分吟味して設定している。	a, cに該当しない場合。	目的の成果を導き出すための解析手法、解析条件の細目設定が不適切である。	b
	技術力 (2)	業務内容の技術的な考察が十分なされ、初期の目的に照らし優れた成果をあげている。	a, cに該当しない場合。	業務内容の技術的な考察が不十分で、初期の目的に照らし成果の水準が低い。	b
	II とりまとめ (1)	仕様書、打合せ等により必要とされた事項を完全かつ広範囲に網羅している。	a, cに該当しない場合。	仕様書、打合せ等により必要とされた掘り下げが不十分である。	b
	とりまとめ (2)	目的、条件、内容、結果及び課題が、簡潔でかつ理解しやすくしかも重要な点がわかる。	a, cに該当しない場合。	目的、条件、内容、結果及び課題が簡潔さに欠け理解しにくく、さらに重要な点がわかりにくい。	b
	とりまとめ (3)	記載方法に創意工夫が見られ、きれいで見やすくかつ読みやすい。また、誤字、脱字がない。	a, cに該当しない場合。	記載方法に創意工夫が見られず見づらい。また、読みにくく誤字脱字が多い。	b
	とりまとめ (4)	図表等の表現の工夫により内容を理解しやすくかつ使いやすくなる努力が見られる。	a, cに該当しない場合。	図表等の表現の工夫により内容を理解しやすくかつ使いやすくなる努力が全く見られない。	b
	とりまとめ (5)	契約関係書類、打合せ資料等、必要な書類がきちんと整っている。	a, cに該当しない場合。	契約関係書類、打合せ資料等、必要書類の整理が不十分である。	b
	III 照査 (1)	チェック方法に努力が見られた。(要点数値の検討、図面通覧、類似比較、チェックリストによるチェック等の中からもっとも確実性の高い方法を選定し、照査を行った)	a, cに該当しない場合。	チェック方法にほとんど努力、工夫が見られず信頼性に欠ける。	b
	照査 (2)	計算間違い、図面の書き誤り等の単純ミスが最終成果にほとんどなかった。	a, cに該当しない場合。	計算間違い、図面の書き誤り等の単純ミスが最終成果に頻繁にあり、やり直しを命じた。	b